

追悼 田原博人さん

田原博人氏を悼む

高橋慶太郎 (熊本大学)

田原博人氏は2025年5月30日に逝去されました。享年88歳でした。謹んで哀悼の意を表します。

田原氏は1936年7月25日、島根県美濃郡（現在の益田市）の生まれで、1962年に立教大学理学部物理学科を卒業、1968年に同大学院理学研究科博士課程を修了し、日本学術振興会特別研究員を経て、1970年に東京大学東京天文台宇宙電波部の助手となりました。1974年には宇都宮大学教育学部助教授に赴任し、1980年から同教授、1995年から99年まで教育学部長を務められました。

研究の中心は電波天文学、特に電波源の偏波観測とファラデー回転を手がかりとする宇宙磁場の研究です。井上允氏とともに、それまでの観測データを網羅した直線偏波カタログを作成し、1510個の電波源のファラデー回転度などを導いた論文（Tabara & Inoue 1980）は、銀河磁場を探る基礎資料として、40年以上を経たいまも参照され続けています。その後も銀河中心核の活動性、宇宙初期の銀河磁場などの研究に取り組み、活動銀河核や宇宙ジェット、スペースVLBI、スニヤエフ・ゼルドビッチ効果によるハッブル定数測定と、電波天文学の最前線に幅広く関わられました。また赤羽賢司氏・海部宣男氏との共著『宇宙電波天文学』（共立出版、1988年）は、歴史から基礎理論、観測装置までを一冊に収めた、日本語で読める数少ない体系的な教科書です。多くの研究者がこの本で電波天文学を学び、2012年に復刊されています。

田原氏のもうひとつの大きな足跡が、天文学における共同利用体制の確立への寄与です。宇都宮大学に移ってから三鷹に通い続け、野辺山宇宙電波観測所の運営システムづくりに深く携わりま



故 田原博人さん（写真提供：ご遺族）

した。大学の一利用者の立場から、誰もが公平に望遠鏡を使える仕組みを考え抜いた経験は、その後の共同利用のかたちに残っています。2001年から02年には日本天文学会理事長として、学会の運営にも力を尽くされました。

2001年から05年には宇都宮大学学長を務め、国立大学法人化という転換期の舵取りを担いました。退任後も『検証 国立大学法人化と大学の責任』（2018年）などを著し、大学の自律とは何かを最後まで問い続けられました。2012年には瑞宝中綬章を受章されています。

田原氏は、研究と同じ熱心さで、コミュニティや大学を支える仕組みを考え続けた人でした。私は田原氏の生前に長時間にわたりインタビューに応じていただく機会を得ました。その記録は、本号より連載を開始する「シリーズ：天文学者たちの昭和」の中で紹介いたします。長年のご尽力に感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。